

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援／放課後等デイサービス Olinaceさかえ			
○保護者評価実施期間	2024年 11月 5日 2025年 1月 27日		2024年 11月 30日 2025年 2月15日	
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	36名 36名	(回答者数)	26名 14名
○従業者評価実施期間	2025年 1月 27日		2025年 2月 8日	
○従業者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)	
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 28日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	脳科学理論をもとにした運動療育	・「動」と「静」のセットでメリハリを意識 「動」と「静」の組み合わせで脳と体が成長し集中力を身に付けます。脳と体は相互関係にあります。体を動かすと脳（前頭前野）が活性化し、集中するために必要な脳の領域が元気になるります。「動」と「静」の活動を交互に繰り返すことにより、興奮を瞬時に抑制する力が高まります。動と静のメリハリで、より強い抑制力を育てるため、結果的に集中する力が身に付きやすくなります。 ・数分ごとにあそびを変えて脳を刺激する 脳の様々な力を切り替えながら行うことで、楽しく能力を育ててことができます。また、子どもも飽きずに続けられるため、集中力も鍛えられます。 ・ストーリーやイメージと運動がセットになっている ハイハイをするだけでも「犬さんみたいに歩こう」など、イメージさせて体を動かすことで想像力を鍛えます。	定期的な運動研修の実施やアレンジした運動プログラムの共有
2	共感的な支援について	教室での療育の成果を実感するためには、子どもの変化や成長をよく観察し、達成感を共有することが必須だと考えている。	今後もさらに保護者の気持ちや立場に寄り添い、子どもたちと一緒に理解しながら支援していく。
3	子どもたちの活動に合わせた空間について	学習や個別の活動等に取り組むときには、個々の特性に合わせて、刺激に少ない周囲に気になるものが無い部屋等で取り組むなど工夫を行っている。	遊びの時間と個々の活動の時間、宿題に取り組む時間等、今後も1人ひとりの力が発揮できる、集中できる環境を提供し、自己肯定感を高められるようにしていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者会等の開催や兄弟同士で交流する機会がない	保護者面談、療育見学等は行っていたが、保護者会の開催は今まで行ったことが無かった。利用者同士としての兄弟同士で楽しむイベントはあるが、保護者分離の教室なので契約していない児童の安全面を考慮し、利用契約をしていない兄弟への参加を促すイベントの開催を行ってこなかった。	保護者の要望等を聞きつつ、保護者会の開催を検討していく。また、兄弟児が参加出来るイベントを開催し、兄弟児への支援も行っていく。
2	家庭支援プログラムや家庭等も参加出来る研修会の開催や情報共有について	運動療育プログラムを毎月配布し、教室内での運動療育でもご家庭でも取り組めるようにしているが、声掛けが足りなかった。ご家庭向けの運動研修会等は行っていなかった。	運動療育プログラムを配布時にご家庭での活用を勧める。また、その月の運動メニューにも多く取り入れ、引き渡し時にご家庭でも取り組んでもらえるように伝える。
3	保育所や認定こども園、幼稚園等、放課後児童クラブや児童館との交流、地域の中で他の子どもとの活動について	保育所や認定こども園、幼稚園等の交流は送迎時に挨拶をする程度で行っていなかった。近隣のキッズランド(児童館)はコロナ移行予約制になっており、室内の人数を制限している。 また、地域の他の子どもとの交流は公園で出会った時に一緒に遊ぶことはあっても計画することはなかった。	近隣の保育所や幼稚園との関係を深め、参画出来るように検討していく。 町役場や子ども家庭センターとも相談し、地域の中で一緒に活動できる機会を検討していく。